

写真右：ほたるの郷の運営を担う、役員の方々と、新鮮な農産物が運ばれてくる。写真左中：小城の食材を使った惣菜は人気商品。写真左下：「いらっしやいませ！」と元気いっぱいいなほたるの郷のスタッフ。



最高賞の天皇杯 受賞!

小城町農産物直売所

ほたるの郷

小城町、祇園川沿いに農産物直売所「ほたるの郷」

(宮島壽一会長) はある。

今年6年目を迎える小

な直売所が第48回農林水産

祭の「むらづくり部門」で

最高賞の天皇杯を受賞した。

全国各地の中から書類審

査で九州代表に。さらには、

専門家メンバーによる厳し

い現地審査を受け、ホタル

の郷は選ばれた。

様々な人々との出会い。

その出会いが小さな種とな

り、成長して今日ではまち

づくりの拠点にまで発展し

た。そんな直売所の魅力

を2回にわけて紹介します。



11月23日(月・祝)に東京・明治神宮で表彰式が行われた。

人と情報をつなぐ直売所

ほたるの郷は開設して6年目と若いお店だが、小規模ながらもこの5年間で、売上高を2.5倍にしている。

お店が目指すのは、「ものを売るだけの直売所ではなく、人と人、都市と農村をむすぶ直売所」。

ほたるの郷を軸に「ネットワーク型直売所」として機能していることが評価され、天皇杯の受賞に至った。

ほたるの郷の取り組みを「ネットワーク」という観点から迫る！

直売所と200人の生産者

店内には地域内で生産された豊富な種類の野菜や果物、鯉のお刺身、小城市ならではの惣菜などが並ぶ。充実した品ぞろえの影には200

人の登録会員の存在がある。

当初、50人の会員からスタートし、今では4倍の人員。増えた要因としては、少量でも出荷しやすいことがあげられる。

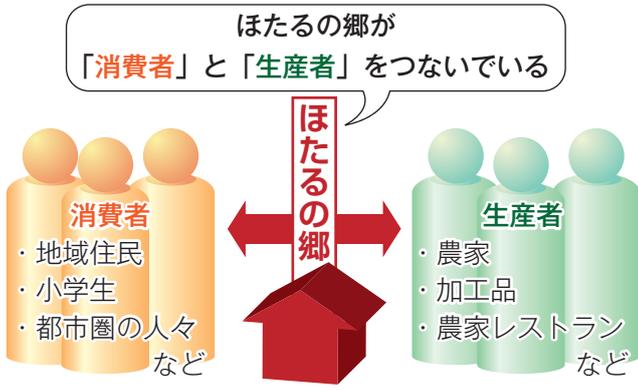
この生産者の皆さんにどんな野菜、商品に人気があるのか、お客さんの声をダイレクトに伝えている。

少量の生産が得意だからこそ、消費者の欲しい商品にどんどん挑戦することができる。

そして今では年間で250種類の農産物が並ぶようになったそう。また、市内の学校給食への食材の提供、市内の飲食店などにも納入することで計画的な生産が可能となった。

更に食の安全のために、農薬の使用履歴の記載や生産履歴（トレーサビリティ）もお店がチェックしている。高橋店長は、「安心・安全と言いますが、そこまでお店が責任を持たないといけない時代だと私は思うんです」と語る。

ほたるの郷の看板を背負う以上、中途半端な商品を出さないという信念がこだわりとなっている。



第48回農林水産祭「むらづくり部門」

消費者とのつながり

ほたるの郷は、「地域の資源や主産業である農業について将来の担い手である子どもたちに関心をもってもらいたい」との思いから、学校と連携。農家と共に、野菜の栽培・収穫などの、農業体験に取り組み、生産者と子どもたちをつなげている。

また直売所を核としたグリーン・ツーリズムを進めている。

都市住民と農村（地域）をつなぐことにより、高齢者の生きがいや地域活性化など多岐に貢献している。

「農業を消費者に理解してもらい田舎の暮らしを楽しんで欲しい」との思いは、県外からの多くの集客につながっている。



新たなネットワークの構築

ほたるの郷の取り組みを調べるにつれて、「人」とのつながりを大事にされていることに気付く。

まさに「地域のコーディネート」として地域資源を活かした取り組みを実践されている。

こういった取り組みにより、地域の活動が活発化し、食文化をはじめ農村文化継承の基盤となっている。

この都市と農村をつなぐ活動は全国の模範となる事例として、今回の審査において高く評価された。物売るだけでなく、情報発信地、また地域をつなぐ核としての役割が評価され、今回農林水産業者最高の栄誉である天皇杯の受賞につながった。

今回の取材を通して、小城を愛する心・人々によってほたるの郷は支えられていることが分かった。人と人をつなぐ直売所。

どっしりと地域に根を下ろし、これからも新たなネットワーク構築への挑戦は続く。

【問合せ】総務課 秘書広報係

(牛津庁舎) ☎63-8818

(ほたるの郷) ☎72-5114